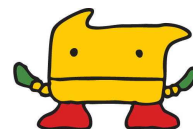


# 嬉 望

第 7 号  
平成25年 7 月 24 日  
兵庫教育大学  
教職大学院  
学校経営コース  
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



ひょうちゃん

大学マスコット

学校改善・教育行財政実践課題研究Ⅰ（1年生専門科目）

## 「現任校描写演習」に取り組んでいます

1年生も入学して3ヶ月が過ぎ、久しぶりの学生生活にも慣れてきたところです。

毎週金曜日の午後は、専門科目「学校改善・教育行政実践課題研究Ⅰ」の時間です。

この講座で現在1年生が取り組んでいる課題は、「現任校描写演習」です。この演習は、現任校（教育委員会）の現状を客観的に記述し、現状と課

題を提示するものです。

発表には、院生と教員のすべてが参加します。発表後の質疑を経て、現任校の課題や学校経営のポイントを把握することが目標です。

1年生は、2年生が作成した事例研究を題材として発表したことはありますが（第2号で紹介）、今回はすべて自分で調査し、課題を見つけて発表する初めての機会です。

発表に向けて、現任校の資料収集、管理職へのインタビューなどを行い、報告書を作成します。発表後は、課題解決に役立つ領域の自主的な学習と、課題解決の参考となる学校経営を実践している事例校の選定に取りかかります。大学院での自主的な学びによって、各自の問題意識と課題解決に向けての「引き出し」が増えていきます。

「現任校描写」を終えて

1年 N（高校）

【「現任校描写」とは】

4月からの大学院での学びを生かして、現任校の現状と課題を分析し、課題解決に向けての方向性を資料20ページにまとめ20分で発表します。毎回2〜3名が発表した後、院生による質疑応答、そして教員からの質問と助言という流れで行われます。

回を重ねることにより高いレベルの内容が求められるため、緊張感が高まっています。

【発表に向けて】

現任校へ出かけ、校長先生、教頭先生にお忙しい中何度も時間をとっていただき現在の取り組みと今後のビジョンの聞き取りを行いました。また、主幹教諭や各部部长からそれ

ぞれの取り組み状況やそれについての資料をいただきました。お聞きした話やいただいた資料、去年までの自分の経験をもとにまとめていきました。

そのような準備を進める中で昨年までは見えていなかった課題にも気づくことができました。しかし、課題解決の方向性がなかなか具体的に描けないまま発表の日を迎えてしまいました。

【発表】

1・2年生の院生と先生方を目の前にするとやはりいつもと違う緊張感があります。20分間でうまくまとめることができず、結局時間をオーバーしてしまいました。発表の方法も含めて準備しておくべきだったと、自分のプレゼン能力の未熟さを痛感しました。

【発表後】

地域や校種の異なる学校に所属している院生からの質問や感想は新鮮で、これまで気づかなかった視点を与えていただきました。質疑の時間が限られているのでその場で聞けなかったことも、院生室に帰ってからの会話やeポータルフォリオ（学生専用）のインターネット上の掲示板）の書き

込みによって新たな学びを得ることができました。

その中で感じるのには、やはり改善の方向性を具体的に示すことができているという点です。この点は、後期の学校経営事例研究のフィールドワークからさらに学びを深め、具体的な方向性を見いだしていこうと思います。

※ ※ ※

### 新しい教授を お迎えしました

3月末で定年退官された廣岡徹教授にかわり、御厩祐司みまやゆうじ教授をお迎えしました。

御厩教授は、93年に文部省に入省され、文化庁係長、愛媛県教育委員会保健スポーツ課長、文部科学省地域政策室長、東京大学研究推進部長、内閣府企画官を歴任されました。この間、文化庁メディア芸術祭、日本学生支援機構、学校支援地域本部、学術研究懇談会などの創設に携わってこられました。

豊富な教育行政での知見が、私たちの学びをさらに豊かで実り多いものにしていただけることと、院生一同期待をしています。

教職大学院での学び

## 「学校組織マネジメントの実践演習A」

(1年生共通基礎科目)

本学教職大学院の「学校経営コース」「授業実践開発コース」「生徒指導実践開発コース」の学生が、1年前期に共通して履修する科目が「学校組織マネジメントの実践演習A」(担当：浅野教授、大野准教授)です。

学校組織マネジメントは、開かれた学校づくり、信頼される学校づくりのために、学校内外の能力・資源を開発・活用し、ニーズに適応させながら、学校教育目標を達成していくための手法です。

具体的には、環境・戦略・組織・人材の4点を「学校を変え手の打ちどころ」「管理職のリーダーシップ」「ビジョンづくり」「学校の内外環境の分析」「わが校の特色づくり」「学校の組織づくり」「学校の人づくり」「学校評価の考え方」「学校経営と教行政」「マネジメント演習(ケースメソッド)」などのトピックに分け、毎回豊富な資料と演習、そして全国の実践事例に精通した教授陣による、具体例に富んだ講義によって進められていきます。

共通基礎科目のため、他コースの現職学生も受講しており、この科目を受けることによって、ミドル層としての自己の役割を認識し、復帰後の教員としての意識を変える学生も多いようです。

なお、学校経営コースでは、後期の専門科目で、さらに深い内容を学びます。



ケースメソッドによる演習と発表の様子

## ファイルドワーク なぜ今、教員に大学院レベルの学びが必要か？

7月6日(土)に神戸ハーバーランドキャンパスで開催された「教員養成の高度化に関する講演会」に2年生2名が参加しました。

まず、「教員養成・採用・研修・免許制度に関する政策動向」と題して、文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育局担当) 山下和茂氏より講演をいただきました。当面の改善方策として、「修士レベルの課程の質と量の充実、教員養成の質と量の充実を図るため、修士課程等の教育内容・方法の改革を推進する仕組みを構築する」、「『学び続ける教員像』を確立するため、教育委員会と大学との連携・協働により、現職研修プログラムを改善し、高度化を図る」ことが示されました。続いて、加治哲也学長が、「高度専門職としての教師教育」について、主に「新人教員の養成」と「現職教員の学び直し」の視点から講演されました。その後、本学大学院修了生

の現職教員を交えて、座談会「なぜ、今、教員に大学院レベルの学びが必要か？」子どもへの明日をひらく指導力にむけて」が開かれました。

現場は困惑しています。発表内容には、大学院での学びを活かし「学校経営」や「危機管理」の視点からの考察を加えました。参加者からは、授業での安全管理や、部活動中の体罰や事故など、活発な質問をいただきました。発表を通して、今後はスポーツ指導の安全管理を明確な形で「学校経営」の中に位置づける必要性があると強く感じました。

## 院生による学会発表

先日、本コース1年生の黒澤さんが学会発表を行いました。以下は、黒澤さんによる報告です。

◇ ◇ ◇  
6月23日(日)に国士館大学世田谷キャンパスで開催された「第18回日本体育科教育学会」で発表を行いました。

発表は、「安全で効果的な柔道授業」学校経営の視点から」と題し、全国の体育指導者・柔道指導者・大学の研究者に対して行いました。

今回の学習指導要領の改訂で、全国の中学校で「武道」が必修となり、そのうち約8割の中学校で「柔道」が選択されています。

しかし、柔道は部活動で重篤な事故が発生しており、体育の授業でも同様の事故が起こる可能性が指摘され、学校



## 【お知らせ】

学校経営コース通信「嬉望」は、前号まで2週間毎に発行していましたが、大学院の夏期休業と2年生のインターンシップのため、発行間隔を変更させていただきます。

次号は8月21日(水)発行予定です。